

多摩交流センター助成事業
府中市後援

声楽研究会
第50回記念公演

La Traviata

歌劇 『椿姫』

2006年3月19日（日）
府中中央文化センター ひばりホール

声楽研究会 第50回公演

GIUSEPPE VERDI

LA TRAVIATA

DRAMMA LIRICO IN TRE ATTI DI FRANCESCO MARIA PIAVE

歌劇 **椿姫** 全3幕

作曲：ジュゼッペ・ヴェルディ
(ピアノと合奏による字幕付・原語上演)

指揮・演出：升水 弘之

ピアノ：坂本 知加子

CAST

ヴィオレッタ・ヴァレリー	馬場 恵
フローラ・ベルヴァ	武田 千宜
アンニーナ	岩田 加奈子
アルフレード・ジェルモン	真弓 智也
ジョルジュ・ジェルモン	吉野 新
ガストン子爵	中野 雄介
ドフォール男爵	浦嶋 和彦
ドビニー侯爵	山田 浩史
医師グランヴィル	高尾 将嘉
ジュゼッペ	小澤 繁樹
使者	森田 賢治
給仕	井口 潔
妖精・踊り子	池田 可奈子

アンダースタディ	岩田 加奈子
	武田 千宜
	坪佐 有希子
	山田 浩史

アンサンブル・バックナーレ合唱団
たのしいコーラス 有志
アンサンブル・バックナーレ合奏団

STAFF

振付	池田 可奈子
演出助手	井出 信幸
稽古ピアノ	坂本 知加子
副指揮	中村 映子
衣裳	井口 潔
字幕製作	井口 和枝
字幕操作	山田 玲子
	山田 岳志
記録・撮影	江田 實
制作協力	葛城 容子
舞台・照明協力	ステージスタッフ エオン
舞台監督	井出 信幸
制作助手	升水 治子
	升水 満
制作	坂本 知加子
	坂本 利彦

後援	府中市
助成	多摩交流センター
主催	声楽研究会

事前にチラシ等にて告知しておりました出演者につきまして変更がございます。
ガストン子爵役、勝部育真に代わりまして中野雄介、ジュゼッペ役、野村忠文に代わりまして小澤繁樹となりました。
あらかじめご了承下さい。

CHORUS

アンサンブル・バックナーレ合唱団
たのしいコーラス 有志

ソプラノ	井口 和枝	板津 貴美華	川上 さおり
	川口 節子	坪佐 有希子	野々村 ありさ
	八方 久美子	細野 千賀子	
メゾソプラノ	江田 廣子	川瀬 静子	鈴木 能子
	中村 映子	古川 恵美	
アルト	家入 菊江	岡村 美恵子	田上 悦子
	升水 治子	米光 和代	
テノール	青島 茂	糸久 清之	小澤 繁樹
	川上 竜二	田上 弘徳	東海 康之
バス	升水 満	森田 賢治	
助演	井口 潔	佐藤 智秋	
踊り子	家入 菊江	池田 可奈子	坪佐 有希子

(五十音順)

ENSEMBLE

アンサンブル・バックナーレ合奏団

ピアノ	坂本 知加子	ヴァイオリン	腰原 里早子
チェロ	丸山 剛弘	オーボエ	熊谷 智
ファゴット	中村 匡伸		

* * * *

ごあいさつ

本日、声楽研究会第50回記念オペラ演奏会として「椿姫」を公演することと致しました。多数のお客様には遠路、ご多忙の中をお運びいただきまして誠に有難うございます。

どうぞ最後までお楽しみいただきますよう、お願い申し上げます。

私ども声楽研究会はアマチュアによる手作りのオペラ団体として平成5年に発足以来、声楽を専攻された多くの若手音楽家にステージ経験を積んでいただけてまいりました。また、地域におきましてはコーラス活動やオペラ鑑賞を通じて、これまでオペラにあまり興味をお持ちでなかった方々にもオペラの楽しさを味わっていただきました。

私どもは今後とも、この活動を通じて少しでも地域の音楽文化発展に寄与することができればと願っております。どうか末永く皆様のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

有難うございました。

2006年3月19日

声楽研究会代表 坂本 利彦

声楽研究会第50回公演を祝って

府中市長 野口 忠直

声楽研究会第50回のオペラ公演『椿姫』が、府中市中央文化センターひばりホールにおきまして、盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。

価値観の多様化する現代におきまして、生きがいと潤いのある暮らしを求めて、芸術・文化活動が活発に展開されておりますが、中でも歌は心の奥底に溶け込み、人間の心に喜びや励ましを与えてくれます。

こうした中で、声楽研究会の皆様には、オペラを通じて市民文化の向上に大きな成果をあげてられました。また、皆様が本公演を目標に日々練習に励まれ、さらにはこれまでの公演においても大勢のお客様を迎えられ、高い評価を得られておりますことは、誠にご同慶にたえません。

これもひとえに、声楽研究会の坂本さんをはじめ、メンバーの方々並びに関係者の皆様のたゆまぬご努力と「市民のための手作りオペラ」に寄せる熱い情熱の賜物と存じ、心から敬意を表する次第でございます。

どうかご出演の皆様には、日ごろの練習の成果を充分に発揮され、本公演が成功し、将来の飛躍のための公演となりますようお祈りいたしますとともに、声楽研究会の今後のますますのご発展と皆様方のご活躍を祈念したしまして、お祝いの言葉といたします。

* * * *

財団法人 東京市町村自治調査会
多摩交流センター

交流事業部長 鈴木 のり子

声楽研究会の第50回公演、オペラ『椿姫』が盛大に開催されます事を心よりお祝い申し上げます。

声楽研究会は、オペラを通じて市民交流を図ろうと積極的な活動を続けてこられました。誰でも参加できる身近な芸術としてオペラを見直したことは、声楽研究会の大きな功績と言えましょう。10年以上にわたる活動を通じて、多数の参加者を得るにとどまらず、新たな市民オペラ企画者をも輩出するなど、多摩地域における市民交流の推進と芸術文化活動の活性化に果たした役割は計り知れないものがあります。

声楽研究会のますますのご発展をお祈り申し上げます。

* * * *

府中市議会議員 杉村 康之

声楽研究会の記念すべき第50回公演の開催、誠におめでとうございます。

市民オペラは今でこそ各地で盛んですが声楽研究会はその先駆けとして、長い間地道な活動を続けられ、三多摩地域の市民芸術文化の向上に大きな役割をはたしてきました。坂本さんをはじめ、声楽研究会の皆様のごこれまでのご努力に心から敬意を表します。

音楽はすばらしい！すばらしい音楽はすべての人の心に響きます。音楽を通じて市民が心豊かに、街が元気になることを願うものの一人です。

今夜は記念にふさわしい「椿姫」とのこと。楽しみに聴かせていただきます。声楽研究会と皆さんの更なるご活躍に、乾杯！

これは 19 世紀、パリの華やかな花柳界、放蕩な貴族らと高級娼婦たちの織り成す世界を舞台にした悲恋の物語です。

第 1 幕 その美貌でパリの名花といわれたヴィオレッタ・ヴァレリーのサロンでは、今日も華やかなパーティーが催されています。遊び人の子爵ガストンが、青年アルフレードを紹介しします。田舎資産家の御曹司で、今はパリで勉強中のアルフレード。かねてよりヴィオレッタの賛美者で、彼女が病気の時には家の前へ日参したという逸話をガストンは聞かせます。

乾杯を済ませると、隣の部屋からダンスの音楽。「さあ、踊りましょう」皆を促すヴィオレッタ。その直後、彼女は苦痛に顔を歪めます。長く続いた不摂生な暮らしが、彼女の身体をすっかり蝕んでいたのです。「大丈夫ですか？」と尋ねる面々は、さしてヴィオレッタを案じる様子も無く、ダンスをしに隣の部屋へ行ってしまいます。ひとり残ったヴィオレッタは、鏡に映った自分の顔色の悪さに呆然とします。ふと人の気配にふり返ると、そこにアルフレードの姿。「もっと自分を大切にしてください、身体を壊してしまいますよ」アルフレードの言葉には、サロンに出入りする放蕩な貴族たちの口からはついぞ聞かれなかった、本気でヴィオレッタを心配する真心がありました。アルフレードの愛の告白を軽く受け流しながらもヴィオレッタは、一輪の花、赤い椿を彼に渡し、その花が枯れる頃にまた会いに来るよう言います。

「不思議だわ」パーティーが終わり、客人が帰った後のがらんとした部屋で、ヴィオレッタは自分の中に、自分でも説明の付かない感情が沸き起こっている事にびっくりしています。そして不器用ながらも見守ってくれているアルフレードの愛と、自由と快楽を求める自分の生き方、ふたつの想いの中で心が揺れ動くのでした。

第 2 幕 1 場 あれから数ヶ月後のパリ郊外。ヴィオレッタは乱れた生活とは縁を切り、アルフレードと愛に満ちた暮らしを送っています。狩猟から戻ったアルフレードは、ヴィオレッタが彼との暮らしの為に自分の資産を全て処分した事をメイドのアンニーナから聞き愕然とします。自分の甘さに腹を立てつつも、何か出来る事がある筈だとパリへ発ちます。

「よくここを突き止めたわね、いくら待っても無駄よ」ヴィオレッタは、友人のフローラから届いたパーティーの招待状を一笑します。そこへアルフレードの父ジェルモンが登場。息子を色香で惑わし、金づるにしているとヴィオレッタをなじります。むっ、としつつもヴィオレッタは資産売却の書類をジェルモンに見せ、アルフレードと真剣に愛し合っている事を告げます。

誤解は解けましたが、それでもジェルモンはヴィオレッタに息子と別れる事を迫ります。「アルフレードには妹がいて縁談を進めています。その兄が娼婦と暮らしている事が先方に知れば破談になる」

「そもそも男は移り気なもの。今は若く美しいあなたを愛しても、時が経てば息子の気も変わるかもしれない」そう言われ、ヴィオレッタは泣く泣くアルフレードと別れる事を受け入れます。

ジェルモンとの経緯は伏せたまま関係の解消を告げる手紙をしたため、ヴィオレッタはパリへ向かいます。折から戻ったアルフレードは、人を介して届けられたヴィオレッタの手紙を読んで愕然とします。再びジェルモンが登場し、故郷のプロヴァンスへ戻ろう、美しい自然がお前をやさしく迎えてくれるだろうと慰めますが、アルフレードに父の言葉は届きません。フローラの招待状を見つけ、飛び出していきます。

第2幕2場 パリのフローラのサロンでは、陽気な仮

装パーティーが繰り広げられ、ジプシーやマタドールに着飾った友人たちが楽しんでいます。そこへ怒りにたぎるアルフレードが現れ、勧められたトランプカードの賭博で勝ち続けます。少し遅れてヴィオレッタが、かつてのパトロンであるドウフォール男爵に伴われて現れます。アルフレードに敵愾心を燃やしている男爵は、アルフレードに勝負を挑みますが、歯が立ちません。

「食事の支度が出来ました」給仕の言葉で勝負は中断し、皆は別室へ移ります。いったん無人となった部屋にヴィオレッタが、続けてアルフレードが戻ります。「何のつもりで僕を呼び出した？」そんなアルフレードの問いには答えず、危険なので一刻も早くこの場を去るようにヴィオレッタは言います。「今さら君と何の関係がある！ それなら僕と一緒に来るのか？」「それは出来ません」ジェルモンとの一件を明かせない彼女は、苦し紛れに男爵を愛していると答えます。

怒り狂ったアルフレードは別室の皆を呼び出します。「僕は、この女の囲われ者になっている事にも気付かない大馬鹿者だった。今こそ、その借りを返すのだ！」そう言うと、先ほどカードの勝負で得た大金をヴィオレッタに叩きつけました。

「出て行け！ 女性に対して何たる侮辱を！」皆の一斉の非難を浴び、その怒号の中にジェルモンも登場。「息子はどこにいつてしまったのだ」と変わり果てた息子に語りかけながらも、自分の家族のために真実を黙ってはいなくてはならない辛い胸のうちを独白します。父と周りの言葉にとんでもない事をしたとアルフレードは我に返ります。後悔の念に駆られるアルフレードにヴィオレッタはきっと私の愛情をわかってくれる日が来る、死んでもあなたを愛しますと諭します。そして激怒した男爵がアルフレードに決闘を申し込みます。

第3幕 パリの街は謝肉祭の喧騒に包まれていますが、ヴィオレッタは孤独のうちに、みすぼらし

い屋根裏部屋で最期の時を迎えようとしています。長らく彼女を蝕んでいた肺病は、もう手の施しようの無い程に悪化していました。往診に訪れた医師はヴィオレッタを励ましますが、アンニーナには数時間の命だろうと告げます。死の床の中でヴィオレッタは、もう何度も読み返した手紙を開いています。

<あなたは約束を守ってくれました。決闘で男爵は負傷し、アルフレードは今、国外にいます。全てを息子に告げました。治療に専念して下さい。後ほど参ります。ジョルジュ・ジェルモン>

「もう遅いわ！」アルフレードもジェルモンも、未だに訪れてはいません。

高級娼婦となって人の道を踏み外してしまった女には、もう神の慈悲にしかすがるものが無い事をヴィオレッタは知っていたのです。

外にいたアンニーナが突然部屋に駆け込んできました。「あの方が戻られました！」そしてアルフレードとの再会。アルフレードは力強くヴィオレッタを抱きしめます。パリを離れて田舎で健康的に暮らそう、きっと身体も良くなるだろうと言いますが、ヴィオレッタはもう自分が死ぬ事を悟っています。最期の時に、愛するアルフレードが自分の許に戻ってくれた事を神に感謝して教会へ行こうとしますが、もう立ち上がって上着を着る力も失せています。「死にたくない！ もっと生きていたい！」アルフレードの戻った今、ヴィオレッタは生命を強く渴望します。

突然、ずっとヴィオレッタは立ち上がりました。「不思議だわ……もう苦しくない、生き返ったみたいな気持ちよ……私は生きられるのね。ああ、嬉しい！」びっくりする皆を前に一步を踏み出します。しかし奇跡は起こりませんでした。

ヴィオレッタはがくっと崩れるように倒れ、医師は臨終を告げます。アルフレードの胸に抱かれ、ヴィオレッタはその短すぎる生涯を終えました。

指揮・演出

升水 弘之
MASUMIZU HIROYUKI

東京都出身。ピアノを宮本良樹と川嶋ひろ子、声楽を藤井あや、指揮法を松本紀久雄と坂本和彦の各氏に師事。初期からの市民オペラ活動に興味を持ち、首都オペラや埼玉オペラ、リリカイタリアーナ等の多くの舞台公演に合唱で参加。また「こうもり」フランク、「ドン・ジョヴァンニ」マゼットのどのソロを努めた。とりわけ東京都民オペラ・ソサイエティには創設時より参加、指揮・音楽総監督の故西本真也氏の薫陶を受ける。そしてオペラの字幕制作も多数手がけ、<初めてオペラを鑑賞する人にも見やすくわかりやすく>をモットーに作られた字幕には定評がある。声楽研究会においては第45回公演「こうもり」、第47回公演「愛の妙薬」で指揮と演出を担当、好評を博す。普段は音楽講師としてカルチャーや公共セミナーで合唱や器楽アンサンブルの指導をしている。

ピアノ

坂本 知加子
SAKAMOTO CHIKAKO

神戸女学院大学音楽学部ピアノ専攻卒業。故東貞一、故アンニ・ヴィクトリウス、エルンスト・ザイラーの各氏に師事。

振付／妖精・踊り子

池田 可奈子
IKEDA KANAKO

恵泉女学園大学卒業。幼少の頃から体で表現することが好きだったため、体操や舞踊を習っていた。幼稚園から東洋英和女学院に入学。中学部に演劇部に入り、多くのキャストやスタッフをこなした。また、高校に上がると生徒会、学校内での音楽活動でのソロなどで幅広く活躍した。またこの時期に声楽を始めた。

2002年4月、大学入学と同時に、東京大学歌劇団に入団。合唱・ソリスト・舞台監督・振り付けなどをこなしつつ、ミュージカルや演劇の団体では演出・振り付け・舞台監督・キャストをこなしていった。また2004年3月声楽研究会公演「こうもり」にて女版フロッシュを演じ好評を博した。同じく10月には演劇団体で主役を熱演し好評を博した。2004年12月東京大学歌劇団を退団。2005年3月にはオペラ団体「etoile」を立ち上げ、制作・代表を務め、「こうもり」を上演し好評を博す。

現在は歌劇団体・オペラ団体に振り付け、演出などで活躍している。今回は台詞がない役にどう感情を観客に伝えるかが難しいところではありますが、温かく見守って頂きたいです。

副指揮

中村 映子
NAKAMURA EIKO

国立音楽大学声楽科卒業、竹本正俊、伊藤亘行、佐藤はる江、井上貞一の各氏に師事。トキワ松学園高等学校専任、非常勤講師を経て、現在ピアノ・声楽・合唱指導を行っている。

舞台監督・演出助手

井出 信幸
IDE NOBUYUKI

長野県出身。上京後第九合唱をきっかけに、ひょんなことから市民オペラ始める。合唱・助演・裏方などを各所団体において経験を積む。合唱出演を始め「椿姫」ジュゼッペ「蝶々夫人」登記役人、「フィガロの結婚」ドン・クルツィオとして出演。またチャールダッシュの女王、ヘンゼルとグレーテル、サンドリヨン（シンデレラ）などの舞台監督を務めるなどコンサートスタッフとして活動。

岩井俊二氏、故西本真也氏に師事。現在は諸般の事情で活動を大幅に自粛しているが、アマチュアなりにマルチプレーヤー目指して修行中。

ヴィオレッタ・ヴァレリー
VIOLETTA VALERY

馬場 恵
BANBA MEGUMI

大阪音楽大学声楽学科卒業。パリエコールノマル音楽学院声楽演奏学科ディプロム取得・修了。フランスピアリッツ国際アカデミー、喜歌劇楽友協会正会員を経て、関西二期会本科修了。

オペラ「カルメン」フラスキータ・ミカエラ、「こうもり」アデーレ、「マリッツァ伯爵夫人」リーザ、「ヘンゼルとグレーテル」グレーテル、「椿姫」ヴィオレッタ、「ブルスキーノ氏」ソフィア等のヒロイン役で出演。また関西フィルと共演のほか各種コンサートに多数出演。

第30回フランス音楽コンクール（日仏演奏協会）フランス総領事賞、第3回万里の長城杯国際音楽コンクール第2位、パリUFAM国際音楽コンクール第2位、第4回フランス音楽コンクール（全日本演奏協会）第1位。中村浩子、E・セリグ、M・メスプレの各氏に師事。コンセール・C会員。

合唱指導のほか、後進の指導にも意欲的に携わる。

アルフレード・ジェルモン
ALFREDO GERMONT

真弓 智也
MAYUMI TOMOYA

大学時代から声楽を始める。大学のオペラサークルをはじめ、数々のオペラ団体でキャスト・合唱等で参加する。キャストとしては「こうもり」アイゼンシュタイン、「仮面舞踏会」リッカルドなどを務めた。また、昨年の声楽研究会第47回公演「愛の妙薬」でネモリーノとして出演した。

ジョルジュ・ジェルモン
GIORGIO GERMONT, suo padre

吉野 新
YOSHINO HAJIME

武蔵野音楽大学卒業、その後イタリア・ミラノへ留学。その間イタリア・ヴェネト州での「蝶々夫人」、スロヴェニア・マリボール国立歌劇場での「リゴレット」モンテローネ伯爵に出演。帰国後はJILA音楽コンクール第2位（1位なし）ほかを受賞。岡本喬生演出・松尾葉子指揮、NPOみんなのオペラほかで「魔笛」パパゲーノ、同団体にて飯守泰次郎指揮「蝶々さん」ぼんぞう。そのほか「フィガロの結婚」フィガロ・伯爵、「ドン・ジョヴァンニ」ドン・ジョヴァンニ、「椿姫」ジェルモン、「道化師」シルヴィオ、「カルメン」エスカミーリョ、「こうもり」アイゼンシュタイン、ベートーヴェン「第九」及びW.A.モーツァルト「レクイエム」ソロ（ロバート・ライカー指揮、東京ニューシティフィル）ほか出演。また演出としてもフリーメーソン・シニムロッヂ百周年記念行事の「魔笛」公演の演出を手掛けたほか「フィガロの結婚」、メノッティ「電話」等多数の演出を手掛ける。東京国際芸術協会オペラ・コンサートプロデューサー、レ・スプレンデル音楽コンクール審査員、東京音楽学院講師。藤田昌克、C.スターラの両氏に師事。

フローラ・ベルヴァ
FLORA BERVOIX

武田 千宜
TAKEDA CHIYO

東邦音楽大学をピアノ専攻で卒業。ピアノを岩崎京子氏、声楽を持木文子氏、P. スクスニチェンコ氏の両氏に師事。在学中は学内演奏会・学校行事・海外での演奏会に於いてピアノの代表演奏を行なう。卒業後は伴奏ピアニストとして主に声楽のリサイタルやコンサート・ディナーショー等の伴奏の仕事を手掛ける一方、声楽家としてもその才能を発揮。2000年にオペラ「泥棒とオールドミス」のレティーシャ役でソリストデビュー後は、精力的に数多くの役をこなしオペラに出演。ロシア国立モスクワ音楽院及び、スイス国立チューリッヒ音楽大学のマスタークラスをそれぞれ修了。第22回TIAA全日本クラシック音楽コンサートに於いて審査員賞、第13回レ・スプレンデル音楽コンクールに於いて審査員賞、TIAA主催「モーツァルト生誕250周年フェスティバルコンサート」に於いて最優秀賞をそれぞれ受賞。現在、コーラスグループを6団体指導。埼玉オペラ協会会員。

アンニーナ

ANNINA

岩田 加奈子

IWATA KANAKO

国立音楽大学音楽教育学科、幼児教育専攻卒業。学生の頃に声楽を大平繁子、高典子の各氏に師事。2002年にKOSMAアマチュアクラシック声楽コンクールで金賞受賞。現在、幼稚園教師。

グランヴィル医師

DOTTOR GRENVIL

高尾 将嘉

TAKAO NOBUOSHI

早稲田大学法学部卒業。童謡の歌手をしていた母親の手ほどきで幼少の頃より歌に親しむ。近年は声楽を土師雅人氏に師事しソリストとして研鑽を続けている。故西本真也氏にモーツァルト作曲「魔笛」のパパゲーノに抜擢されオペラ・デビューしたのを皮切りに、同「フィガロの結婚」(フィガロ・アントニオ)、ヴェルディ作曲「リゴレット」(モンテローネ)、ロッシーニ作曲「ブルスキーノ氏」(フィリベルト)、ビゼー作曲「カルメン」(モラレス)、などのオペラに出演した。今後はモーツァルト作曲「ドン・ジョヴァンニ」(レポレッコ)、ドニゼッティ作曲「愛の妙薬」(バルコーレ)などの出演を予定している。東京国際芸術協会会員。PASSIONE会員。

ガストン (エトリエール子爵)

GASTONE , Visconte de Letorières

中野 雄介

NAKANO YUSUKE

福島県出身。高校時代合唱部に所属。バスのパートを歌い始める。大学のサークル活動で、「ボエーム」コッリーネを歌い、その後バリトンに転向。「マノン・レスコー」レスコー、「エフゲン・オネーギン」のタイトルロールを歌った後、テノールに転向、現在に至る。

ドフォーール男爵

BARONE DOUPHOL

浦嶋 和彦

URASHIMA KAZUHIKO

これまでにヴェルディ作曲「リゴレット」、モーツァルト作曲「魔笛」、ラヴェル作曲「魔法と子供」、ヴェルディ作曲「椿姫」、モーツァルト作曲「フィガロの結婚」、同「ドン・ジョヴァンニ」などに出演。

ドビニー侯爵・使者

MARCHESE D' OBIGNY

山田 浩史

YAMADA HIROSHI

東村山市出身。高校の頃より合唱を始める。大学時代、青島広志作シアターピース「11びきのねこ」にて主役(にゃん太郎役)を演じる。大学卒業後、混声合唱団「麗鳴」に入団。現在に至る。

ジュゼッペ

GIUSEPPE , servo di Violetta

小澤 繁樹

OZAWA SHIGEKI

東京大学文学部国文科卒業。現在某企業にてSEとして勤務中。

大学在学中に東大歌劇団に所属し、オペラを始めました。今回はとっても地味な役ですが、通勤電車で楽譜をペラペラしながら覚えました。一瞬ですのお見逃しなく。

使者

COMMISSIONARIO

森田 賢治

MORITA KENJI

神奈川県横浜市出身。これまでに東京大学歌劇団、Animusu Clarus、声楽研究会、オペラルーチェなどで「ドン・カルロ」「アイーダ」「仮面舞踏会」「カルメン」「こうもり」「魔笛」などに出演。「椿姫」の使者役はこれで4回目となる。

1962年生まれ、東京都出身。東京農業大学農学部卒業。専門は菌類分類および菌類生態学。現在、菌類について多角的に学ぶ市民団体の顧問を務めている。語学・洋裁は独学。公演に寄せて「女性キャストの衣裳の一部を制作。オペラ出演者としては未熟極まりないですが、温かい目で見てやって下さいませ・・・」

解説

EXPLANATION

G. ヴェルディ 1813年、北イタリアのロンコーレ生まれ。宿屋と食料品店を営む家族の長男で、幼い頃から音楽の才能を認められていたが、経済的に苦労しながら音楽を学び、オペラを志す。ミラノ音楽院の入学に失敗したり、短い間に妻子を亡くすなど辛酸をなめた後、「ナブッコ」で大成を収め、一躍スターダムに。以後は順調に大家への道を歩み、「リゴレット」「トロヴァトーレ」「椿姫」で国際的評価を確立。晩年の傑作「オテッロ」「ファルスタッフ」はイタリアオペラの最高峰のひとつと評される。また、農場経営者としても成功し、名士と認められ、イタリア統一（1861年）後には国会議員に選出された。この頃に「アイダ」を委属・作曲している。最晩年には慈善事業にも取り組み、音楽家のための老人ホーム「憩いの家」などを残した。ミラノにて1901年没する。

椿の花 「椿姫」は小アレクサンドル・デュマの小説「La Dame aux camélias（椿の花をつけた淑女）」の芝居を見たヴェルディがオペラ化したものである。彼の2番目の妻となったソプラノ歌手のジュゼッピーナ・ストレッポーニは彼と会う以前から何人もの男性との関係を持ち、私生児までいた。一時は悩んでいたものの彼女と同棲生活を始めた。しかしきわめて保守的な考えの故郷の片田舎で彼女は受け入れられず、村八分扱いであったらしい。当時貞操は女の命で、娼婦はけがれた存在として忌み嫌われ、教会にも入れてもらえなかった。そんな背景がこの作品と重なりヴェルディが「La Traviata」を生んだ原動力になったのかもしれない。そもそも「La Traviata」は椿を示す言葉ではなく「道を踏み外した女」と訳される。ヴィオレッタの3幕のアリア『さようなら、過ぎ去りし日よ』で一度だけ「Traviata」と歌う。そう「道を踏み外した女の願いに微笑んでください」と神に懇願する。きっと社会から疎外された、道を踏み外した人間でも気高い存在でありうる、という想いが込められている。ヴィオレッタは実際に実在した女性でマリー・デュプレシ（本名アルフォンシーヌ・プレシ）という。彼女が良く花屋で求めていたのが椿の花だったとか、劇場の栈敷の手すりには花束があったとか、胸に椿の花を差していたなどの彼女の椿好みは筋金入りである。そしてその椿の花は、月のある期間は赤い椿、ない期間は白い椿でそれとなく伝えるという手段を私は高級娼婦らしい、いい表現なのではと思う。アルフレードが1幕で帰ろうとするとヴィオレッタが「この花がしおれたら戻ってきて」と椿を渡すが、今回の公演では赤い椿とした。原作の「この花の色が赤から白に変わった日にやって来るように」と最初の逢引きの日を指示していることからなのだが、普通なら赤い椿を渡すあまりにもどぎつい表現も、彼に渡すことで彼女なりの愛情表現をしたかったという解釈もしている。

妖精 本公演に於いて、通常の椿姫にない「妖精」の演出を加えることにした。妖精とは「西洋の童話などに出る、木・花・森・湖などの自然物の精霊」であり、普通人には見えない存在である。今回は椿好きのヴィオレッタに花の妖精がついていて、花を通じてヴィオレッタを翻弄させる役回りと位置づけている。もともとはマリー・デュプレシの伝記のひとつである「La Fleur Mal」（悪の華）から発展させたもので、彼女の運命を表すひとつになればと思っている。

確かにヴィオレッタにとって人生のほとんどが苦しかったかもしれない。ただ、彼女は悲劇のまま旅立ったのではなく、道を外した女でも最期はちゃんと救われて昇天した事を序曲に演出してみた。序曲や3幕の冒頭の音楽を聴いていると、決して悲劇だけでは終わっていないヴェルディのメッセージが聴こえてくる様な気がするのである。

（演出助手 井出信幸）

Georges Bizet
C A R M E N

声楽研究会オペラ公演

ジョルジュ・ビゼー 歌劇「カルメン」全4幕

ピアノと合奏による字幕付原語・日本語上演

2007年3月21日 水曜日 祝日 府中の森芸術劇場 ふるさとホール

指揮・脚本・演出：升水 弘之 ピアノ：坂本 知加子

キャスト募集 あなたもカルメンに出てみませんか！

- 募集キャストは全配役になります。
- 7～8月にオーディションを実施します。9～10月より稽古開始予定。
- 楽譜 ギロー版（米・シャーマー社 出版）
- 形態 フランス語・日本語の混合 但し、レチタティーヴォ(叙唱)はカットし、日本語脚本で上演
- チケットノルマはありません。原語未経験でも丁寧に指導いたします。初心者でも構いません。
- 申し込み・問合せ先

042-364-3778 坂本まで chikakosak@nifty.com

*お問い合わせいただければ、追ってご案内・募集要項をお送りいたします。

アンサンブル・バックナーレ合唱団 団員大募集

資格・経験は一切問いません。一緒に舞台に立ちませんか！

- 練習は、基本的には日曜日 18時から府中市内各施設（片町文化センター・浅間中学ほか）
- 歌劇「カルメン」「ラ・ボエーム」の練習になります。
- 参加者の経済的負担を減らすために、従来のチケットノルマ制を廃止しております。参加費等詳しいことは下記までお問い合わせください。

03-3751-1818 携帯 090-1207-0044 升水まで

tanu-tanu@ezweb.ne.jp または masumizu-scellerato@t.vodafone.ne.jp

<http://www.geocities.jp/seigakukenkyuukai3/> (PC専用)

Outline manufacture by MASUMIZU HIROUKI
Program design by IDE NOBUYUKI

